

「日本画とパッチワークの3人展」を訪ねる



9月15日(月)の敬老の日に、所沢市市民文化センター・ミューズの「ザ・スクエア」において、藤崎隆司さんらの3人展が開催されました。あかね会庶務の溝口が3人展を訪ねましたので、ご報告します。

令和7年のあかね会総会で講演された藤崎隆司さん(昭和44年卒業)と、教員時代の同僚だった中澤久子さんお二人の日本画に加え、中澤さんのご友人でパッチワークの大家である北原光子さんの「3人展」でした。

藤崎さんは37点、中澤さんは27点、北原さんは12点の76点が展示され、会場「ザ・スクエア」全体を使い大作が並びました。

藤崎さんの作品は、総会で紹介された「玉すだれ」「秋澄む」「ノーゼンカズラ」「奥入瀬渓谷」「仏陀杉・屋久島」「美の町・真鶴」「背戸道より望む」「まどろむ」など

のおなじみの作品が展示されました。

そのほか、フランス・イタリア旅行での旅のスケッチ、水彩画のほか、東北の「立ちねぶた・五所川原」、「古屋敷村・山形」「蔦温泉」など、国内旅行の絵も数多く飾られていました。

藤崎さんは、1993年、都立久留米高校の在職時に、同僚(美術担任)の石川義和先生に師事してより30数年となり、2016年、2017年に「現代パステル展」に入選して以来、日本画院展新人賞を受賞されました。

ここ3年は、毎年、日本画院展に入選されるなど、数多くの作品を残されています。

9月11日から16日の絵画展には400人以上のお客さんが訪れたそうで、会場整理にはお嬢さんの手伝うお姿も見られました。



「日本画とパッチワークの3人展」主な作品



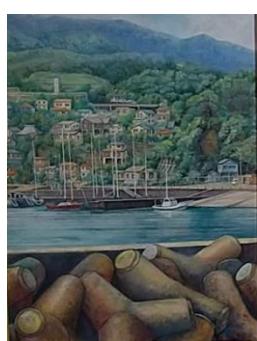
奥入瀬渓谷Ⅱ



コロッセオ



中澤久子さん
「桟橋」



美の町真鶴



常夜灯を望む



フィレンツェ・ドオーモ



シャルトル大聖堂



上：福島・須賀川の牡丹
下：盛夏の港町